

2018 道東BTCU-12 in 十勝

文責 根室地区トレセンU12 蔦川 明秀

- 1 開催日 平成30年5月19日(土)・20日(日)
- 2 会場 士幌町陸サッカー場
- 3 参加者 選手 20名
指導者 2名(羅臼JFC・藤本コーチ、成央FC・蔦川)

4 結果

【19日(土)】	網走	3-4	根室	【20日(日)】	十勝A	3-2	根室
	十勝B	1-0	根室		釧路	1-1	根室
					十勝B	1-1	根室

5 分析

守備について、ボールホルダーのボール状況(ボールの置きどころ(右足なのか、左足なのか)、足元にボールを止めていないか)、身体の向き(攻めるゴールに対して背を向けていないか、次にパスを出しそうな相手や方向)、相手オフ選手の立ち位置を常に観る、観ることによって、予測が生まれ、選手の判断のもと実行すること、そして、人に寄り過ぎず、スペースと相手を意識した中で、ファーストDFが決定した後のカバー並びにバランスの徹底、2列目、3列目の関わりを増やし、スペースを消し正しいポジションから動き出すことを選手たちに問いかけた。さらに、球際は相手に負けない、取られたら取り返す強いアクションで対自することも要求した。選手たちは、要求したことに真剣に取り組み、強度なスプリントから生じるハイプレッシャーを常に連続してかけ続け、高い位置で相手選手を予測し、ボールを奪い、味方と関わりながらゴールに向かうシーンが多く見られた。

しかし、フィジカル的な問題もあり、上記に示したことがルーズになることも目立ち始め、ボールホルダーと守備者の間にスペースが生じ、ボールホルダーに多種多様な選択肢を与えてしまい失点に結びついたことも現実である。

攻撃面については、ゴールを奪うために、シュートを打つことを選手たちに働きかけた。そのためファーストタッチでのボールの置き所を工夫することや、相手選手との距離を観ておくこと、シュートを打つためのボールを呼び込む動きにチャレンジする選手が多く観られた。しかし、相手GKのポジションを観ていないため正面に蹴ったり、軸足の踏み込みが浅いため威力が弱くなったりした課題が残った。

6 まとめ

遠征メンバーを20名に増やした最初の遠征だった。プレーに関しては、収穫と課題が両方見られた。特に、連動した守備や守備から攻撃への切り替えなどが例としてあげられる。引き続き、トレセンの活動を充実させて行くことで、選手のますますの成長を期待したい。また、オフザピッチに関しては、U11・U12合同の遠征ということもあり、6年生からは最高学年としての自覚をもった言動が多く見られた。今後のさらなる成長に期待したい。